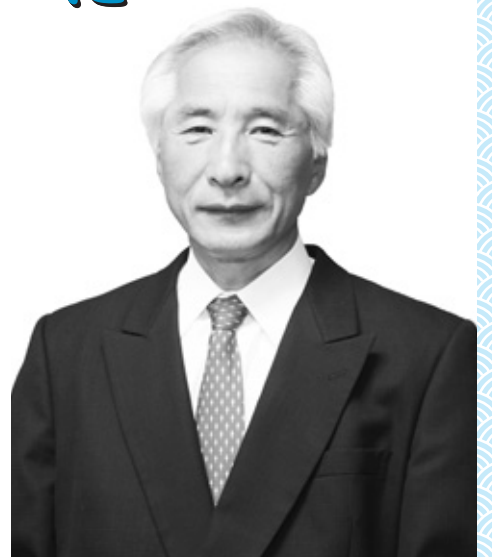


# 地域に灯りをともし、 養父市を明るく照らせるように



養父市長  
広瀬 崇

新年あけましておめでとございます。  
輝かしい平成23年の年明けを、ご家族お揃いで迎えのこととお慶び申し上げます。

昨年の日本を振り返ると、夏の異常な暑さと局地的な集中豪雨、そして、円高による経済・雇用不安など、市民生活にとって厳しい年でした。反面、チリ鉱山落盤事故における奇跡的な救出、燃え尽きてまで使命を遂げた小惑星探査機「はやぶさ」の勇姿、根岸・鈴木両氏のノーベル化学賞受賞といった明るい話題は、多くの人々に感動と希望を与えました。

本市の平成22年を顧みると、依然として少子高齢化が続き、各集落や校区には様々な困難が発生しています。

そのような中、国は地方分権の進展に伴い、地方に一層の自立を求めています。このため、本市は、平成21年に施行した「まちづくり基本条例」に基づいた行政運営に努めて参りました。

基本条例では、元気で安心して住める地域をつくるため、住民自らも主体的に住む地域社会に責任を持ち、主体的に活動していくことを求めています。一方、行政に対しては、そうした住民の努力をしつかり補完し、共に考え、働きながら様々な課題を解決していくことを求めています。

こうした考え方に立った努力は、徐々に市民に浸透しつつあり、18校区中8校区で自治協議会を設立していただきました。また、市民や民間企業と

の協働で「養父市産業フェア」や立誠舎の改修整備、世界文化遺産登録を目指した「鉱石の道」事業、「おおやアト村構想」、グラウンドゴルフ場を備えた「はさまじ里山の森公園」事業、関宮の「まちなか振興モデル事業」など、本市の元氣回復に向けた各種事業も進みつつあります。

平成23年は、こうした取り組みを子育て支援等にも展開しつつ、一層推進する所存です。地域の隅々に一つずつ灯りをともし、やがて養父市全体を明るく照らしていきたいものです。

最後になりましたが、皆様のご多幸を心から祈念申し上げ、新年のごあいさつといたします。

養父市民の皆様、新年明けましておめでとうございます。

皆様には、希望に満ちた平成23年の輝かしい新春を迎えられましたことからお慶びを申し上げます。

旧年中は、養父市議会の活動に深いご理解とご協力、また、温かいご指導を賜り、議会を代表いたしましたして厚く御礼を申し上げます。

さて、民主党政権が誕生して、「地域主権」を旗印に、各種の施策を打ち出され、大きな期待をしていたわけですが、連日のテレビ放映等を見ますと、尖閣諸島問題、北朝鮮の韓国砲撃、また、日本の政治のあり方、民主党の内紛等、内外とも誠に残念な状況が続いています。

しかし、そうした中ではありますが、昨年3月、過疎地域自立促進特別措置法が改正され、公共整備のほか身近な足（生活交通）の確保、地域医療の充実、集落の維持や活性化等のための人材育成など、ハード・ソフト両面にわたつての対策に取り組めるようになり、養父市のまちづくりに少なからず夢を与えてくれるものと期待をしております。

また、広域行政で取り組んでいます南但ゴミ処理施設建設工事の請負契約や養父市の火葬場建築工事請負契約が締結されるなど、養父市合併以来の懸案事項が大きく前進してまいりました。

今年、養父市の新しい総合計画の策定がされる年となっておりますので、

市民の皆様も特に関心を持っていただきたいと思います。

養父市議会といたしましては、養父市総合計画の議論を深めながら、産業、教育、福祉、医療問題をはじめ、過疎化、少子高齢化、限界集落等の諸課題解決のため、さらなる努力を重ねてまいります。さるる努力を重ねてまいります。市民の皆様方には、昨年に倍しましてのご指導、ご鞭撻をお願いいたします。

養父市の益々の隆盛と、養父市民の皆様方のご健勝、ご多幸を祈念いたしまして年頭のあいさつとさせていただきます。

## 夢を与えられる

## 養父市づくりを



養父市議会議長  
北尾行雄